

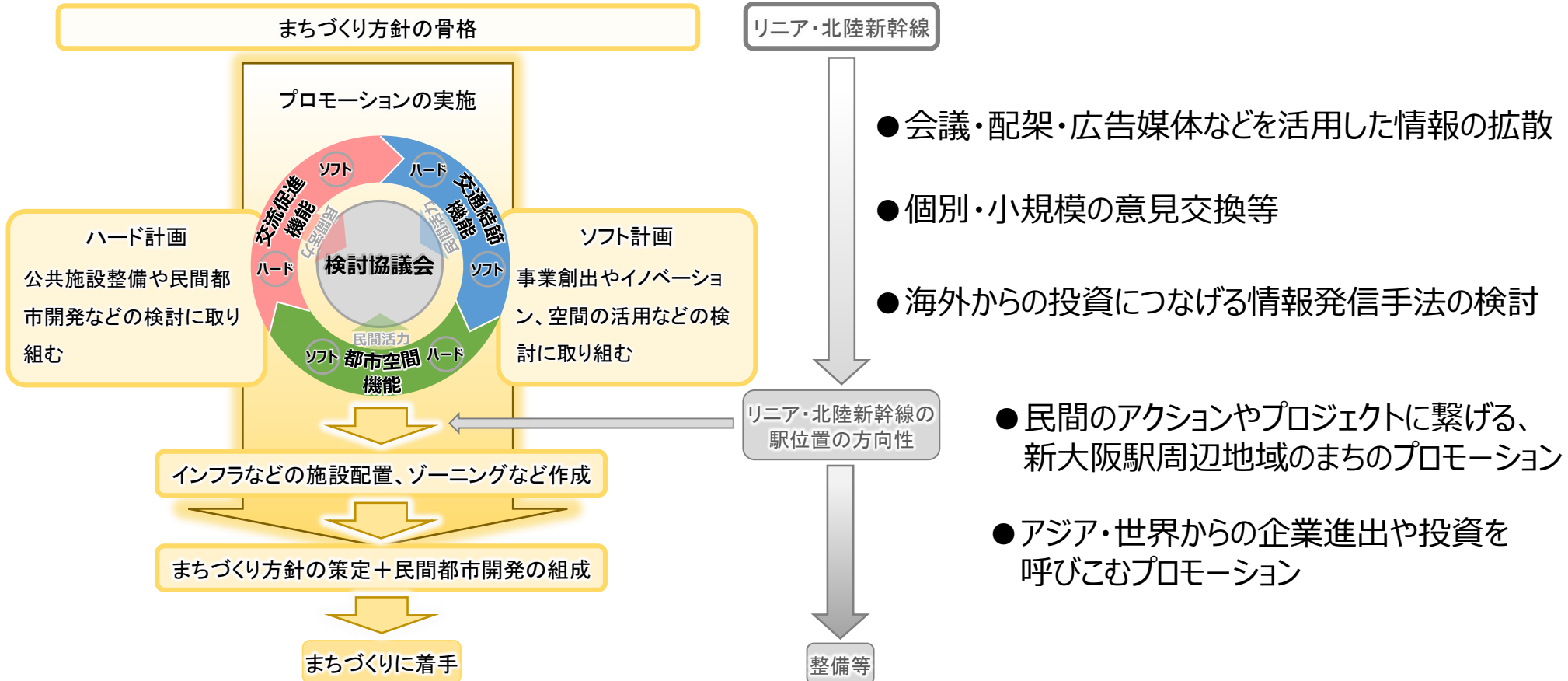
# 新大阪駅周辺地域のプロモーション等について

## 「目的」

「新大阪駅周辺地域の動きを広く知ってもらう」

とともに、

「民間都市開発等の機運醸成や実現」へつなげていく



図：今後のまちづくりの進め方  
 (「まちづくり方針の骨格」より)

# 当面のプロモーション等の取り組み状況と今後のうごき

## ■ 当面の取り組み

◆ 実施済み  
◇ 実施検討

【プロモーションの手法とねらい】

【第4回以降の取り組みの状況と今後の予定】

### ◀ 会議・配架・広告媒体などを活用した情報の拡散 ▶

- ◆ 新大阪駅周辺地域（十三駅、新大阪駅、淡路駅周辺）の取り組みを幅広く拡散
- ◆ 新大阪駅周辺地域の動きを知り、興味を持ってもらう

- ◆ 広報資料の作成（まちづくり方針の骨格の多言語化）
- ◆ ターゲットを見据えたシンポジウム・セミナーなどの実施（令和3年3月30日 東京）
- ◆ 中国地方、四国地方の経済団体との意見交換
- ◆ 民間都市開発事業者の勉強会への参加
- ◇ 広告媒体の活用

### ◀ 個別・小規模の意見交換等 ▶

- ◆ 新大阪駅周辺地域の動きを知ってもらう
- ◆ まちづくりに対するアドバイスや情報交換
- ◆ さらなる情報の拡散

- ◆ 意見交換  
第4回協議会以降に53名（～令和3年8月4日）  
（民間 40名、学識 13名）
- ◆ バス関連、見本市イベント開催者、不動産開発オフィス建築等
- ◆ 海外のJETROとの情報交換を実施  
（ロサンゼルス、ロンドン、香港、シンガポール等）

### ◀ 海外からの投資につなげる情報発信手法等の検討 ▶

- ◆ 新大阪駅周辺地域を知ってもらう
- ◆ 海外への情報発信の手法を知る
- ◆ 多国籍のまちづくりについて知る
- ◆ 企業進出や投資の取り込みにつなげる

- ◆ 在日商工会等との意見交換  
（関西中華総商会等）
- ◆ 在阪の外資系企業と意見交換  
外資アクセラレーター
- ◆ アジアからの海外留学生とのワークショップ意見交換  
（インドネシア、ベトナム、ネパールからの留学生）

# 意見交換（R2.10～R3.8）の概要 （主な内容）

## 意見交換での主な意見について

### ○全体・ポストコロナに関する意見

西日本の経済団体、地権者のご意見 ⇒ 今後、検討を深める中でまちづくり方針に反映

情報発信の手法のご意見

○交通結節機能についての意見 ⇒ 「資料 3 - 2 交通結節機能」に反映

○交流促進機能についての意見 ⇒ 「資料 3 - 2 交流促進機能」に反映

○都市空間機能についての意見 ⇒ 「資料 3 - 2 都市空間機能」に反映

## 全体・ポストコロナ

- ・ オンラインが社会に浸透したものの、初めての対面、モノに触れる、ディスカッション、思いがけない出会い、契約など大事な局面は対面でリアルは欠かせない。
- ・ 働き方としては、在宅勤務が浸透したことにより、単純作業や個人で完結する作業のように会社に行かなくともできることと、アイデア出しや、社員の育成（特に若手の育成）など会社にあつまらないとできないことが確認されてきており、出社を前提とするような海外の企業もあれば、賃貸床を減少させた企業もいる。また、オフィスのづくり方も、交流しやすいオープン空間と、集中できる個別空間を併せ持つような空間づくりなどがすすんでいる。
- ・ 商業において、オンラインのeコマースがより一層進んだことから、単純にものを売るという場よりも、そこに行かないと手にはいらぬもの、オリジナルのテナントの重要性が高まるほか、商品の体感や、対面サービスなどのリアルな空間・状況が必要となるなど、収益構造の見直しに迫られている。
- ・ 吹き抜け等がある開放感やゆとり、安心感のある空間が必要。
- ・ 都市の機能を維持し続けるためには、観光のみではなく、人が新大阪に定着することが大事。
- ・ 魅力的な住環境（癒しやうるおい）とその近くで働ける環境があれば、新大阪に定着したくなる。

（海外のうごき（ロンドン、香港、ロサンゼルス、シンガポール））

- ・ 強制的に在宅勤務が続き、出社しなくとも業務ができることが認知されたので、企業側は、固定費削減のため、オフィス利用の床面積を減らす動きが出ており、空室率が上昇（シンガポール除く）。
- ・ 一方で住宅不足によるリビングコストの高騰がつづいており、変化がない。
- ・ スタートアップやクリエイティブクラスは、都心に仕事に行かない。環境の良い海辺などの居住エリアで仕事をして、必要な時だけ都心に行く。中心市街地の空洞化の懸念
- ・ テレワークの普及によるフレキシブルな働き方へシフトしている状況に対応すべく、コワーキングスペースの需要が高まっている。

## 交通結節機能（その1）

（高速バスの拠点化）

- ・ 高速バスの需要については、人口は減少するものの、インバウンドの復活、個人旅行の増加の傾向があることから、少なくとも大幅な減少は見込めない。
- ・ 高速バスの拠点として新大阪は、すでに関西の他の新幹線駅と比較してもアクセスがよく、リニア中央新幹線の整備による需要の増加、淀川左岸線の整備によるバスアクセスとしての利便性の向上が見込まれるため、整備ができれば効果は大きい。
- ・ 大阪の中の他の拠点との役割については、新大阪は、わかりやすくは西日本をつなぐ新幹線駅のバス停であり、大阪都市圏の交通結節点である梅田、難波とは違う役割を担う。また、梅田、難波に集積する商業や業務の機能を目的地とする利用者がいるので、新大阪までネットワークをさせて、バスの運行側の事業収益性やバス利用者の利便性の向上を図るという考え方ではないか。
- ・ 広域的に高速道路に近い新大阪は、梅田、難波の発着するバスが経由して、リニアなどの広域交通の利用者に利用してもらうことが想定できる。
- ・ もたせる機能としては、しっかりとしたブースを確保することはもとより、大阪、難波が、分散化しており海外などから来た利用者には、わかりにくいという課題がある。一方で、新大阪で、コンパクトに集約し、24時間空港の関空に対応した24時間化、利用者の待合環境の充実、バスの待機空間の確保等、大阪の他拠点の課題に対応できれば、関西のバスのシンボルとして新大阪の顔の一つになる。

## 交通結節機能(その2)

(高速バス拠点を含めた交通結節施設の事業性)

- ・ 新大阪は、新宿や八重洲のバスターミナルとは異なり、バスの発着料にたよるスキームでは、バス事業者への負担が大きく、本来目的であるバスを集めることができない。できるだけ発着料金を低くして、バス事業者が発着しやすい環境を整えるべきである。そうすれば、従来路線だけでなく新規路線の開拓なども進み西日本全体の利便性向上にも資する。そのためには、空港コンセッションのように、商業床などの収益性の高い部分をうまく割り当てて、将来の投資力の確保といった観点も含めて全体として、採算がとれるようにするべき。

(空間レイアウト)

- ・ 交通結節施設のレイアウトについては、駅前広場である限り、車の乗降の機能性は必要なことではあるが、一方で従来通りの車中心の空間整備と見えないように、駅とまちを繋ぐ人の動線や滞留空間を大事にして、歩車分離はもとより人の空間に徹底的に配慮した空間配置とするべき。
- ・ 交通結節施設を重層化するのであれば、初めて訪れる人へのわかりやすさの配慮が必要であり、まちにつながる人のグランドフロアを1層でも挟み、さらに多層にわたる吹き抜け空間を設けることができれば、縦方向の空間認識がしやすくなる。また、そのフロアを屋内の空間とすることができれば、災害時に一時待避場所として、雨風をしのげる空間としての活用が見込める。



### 都市空間機能

- ・新大阪を訪れた人が“歩いてわくわくする空間“を演出し、人をまちによび込むことが大事。
- ・屋内のオープンな公共的空間の充実をキーワードにしてはどうか。
- ・新大阪、十三、淡路の傍を流れる淀川は水と緑の貴重な空間であり、まちづくりの中で活かすべき。
- ・新大阪は西日本のゲートウェイ空間とするならば、建物の機能の充実だけでなく、緑やオープンスペースを配置するなど、人目線での演出が必要

### 交流促進機能

- ・イノベーションはオンラインではなく、フェイストゥフェイスのリアルコミュニケーションから生まれていく。モノに触れるといった見本市は、完全にはオンラインに切り替わらない。
- ・新幹線駅直結の1ha以上を見本市会場は日本にはなく、新大阪に設ける意義の整理は必要だが、広域交通の広い圏域をもつ結節点となる新大阪との相性が極めて良い。さらに見本市だけでなく、イベントにも活用できるように多機能化が図れるのであれば、大きな強みになる。
- ・地域で育てていく文化機能や、人の交流を促進させるナイトアクティビティが必要。
- ・新たな価値観や文化が生まれてくるためには、若い人達がまちに定着することが極めて重要。



## 西日本の経済団体との意見交換

### ○中国経済連合会

- ・中国地方は、欧米系が多いという特色がある。瀬戸内、山陽、山陰と3つの特色があり、瀬戸内クルーズや、広島原爆ドーム、厳島神社などがキラコンテツである。これらの集客性の高いエリアで、山陰原風景などのPRをして人の流れをつくっている。
- ・関西からはもとより、リニア中央新幹線の整備による関東方面からの流れ、関西国際空港からのインバウンドの流れが重要であり、新大阪からの新幹線や、高速バスには期待しており、新大阪でのPRなどの可能性などについて、連携していきたい。

### ○四国経済連合会

- ・四国地方は、アジアからの来訪が多く、訪日リピーターが多いという特色がある。観光コンテツとして自然・スピリチュアルな体験（お遍路など）を目当てに来られる方が多い。関西などと地域を超えて同じテーマで連携し周遊してもらいやすくする取り組みなども重要。
- ・四国の観光においては、関西からのアクセスが多く、特に東側の香川県・徳島県については高速バスが優位となっている。

### 地権者との意見交換

- ・ 建物を建て替えるタイミングがきている。
- ・ 新大阪駅のビジネスの徒歩圏は、複数の新規のオフィスビルの整備の動きがあるなど、広域交通の利便性からのポテンシャルは高まってきており、リニア中央新幹線や北陸新幹線の整備により、さらに圏域が広がるため、さらにポテンシャルは高まるのではないかと考える。
- ・ 新大阪駅とまちをつなぐ歩行者動線の円滑性と質などの機能向上及び、都市開発の低層部の人の空間や交流促進機能などの充実は、新大阪の広域性だけでなく、ポストコロナの観点からも、新大阪の拠点性向上のために必要な内容であると考えている。
- ・ 都市再生緊急整備地域の指定に向けた具体的な動きがあれば、具体のプロジェクトの検討の中で、これらの新大阪駅周辺の拠点性の向上を図る機能の導入に取り組むなど、まちに貢献していきたい。

### 海外からの投資につなげる情報発信手法等の検討について

（外資系アクセラレータ）

- ・日本に進出しようとしている海外企業にとって、口座の開設や融資、登記などのトータルのサポートが必要であり、日本進出に係るイニシャルコストやランニングコストの低減を重視している。
- ・東京に比べて、日本各地への近さや生活のしやすさをうまくPRしていくことで、海外企業は新大阪に興味を持つのではないかと。

（関西中華総商会）

- ・海外の投資家から見て、日本は政治安定性や社会治安等の観点からして、投資で損をすることはないが、利幅が小さい投資先である。
- ・日本の中でも新大阪は東京や梅田に比べて、都市開発で伸びる余地がある投資先である。
- ・一方で、海外から見たときに新大阪の将来像が見えにくい状況である。そこで、新大阪の将来像をわかりやすく示し（3D都市モデルの活用等）、いかに魅力的な都市になるかを積極的にPRすれば、海外からの投資を呼び込めるのではないかと。

（アジアからの海外留学生とのワークショップ意見交換）

- ・海外の方が生活をするうえで、交通利便の高さや安心・安全は非常に有利な要素である。
- ・また、生活にかかるコストの高さや多言語化の非対応は、仕事や生活をするうえでの障壁となる。